

作付前に必ず読んでください！

## 安全な野菜を生産するために～放射性セシウム対策～

平成25年4月 県中農林事務所農業振興普及部

### 【畑の準備・育苗について】

#### ・畑にはカリウム（K）を含む肥料を必ず施用しましょう！

放射性セシウムはカリウムと性質が似ているため、土壌中のカリウムが少ないと作物は放射性セシウムを吸収してしまいます。そのため、作物が必要としているカリウムを作付前にしっかり施用することが重要です！！

野菜を連作している畑は、土壌中のカリウムが十分な場合が多く問題はないのですが、野菜を初めて（または数年ぶりに）栽培する畑や客土した畑は、土壌中のカリウムが不足している場合があるので、三要素(N-P-K)肥料の他に必ずカリ肥料を施用してください！

施用例)

#### ①硫酸カリの場合 15～20kg/10a

速効性で土壌によく吸着される。ただし、一度に多量に施用すると、苦土(Mg)欠乏を引き起こすので注意する。

#### ②ケイ酸カリの場合 40kg/10a

やや緩効性であり、多量に施用した場合でも濃度障害を起こさない。ケイ酸の吸収が良く、品質向上にも効果がある。

#### ・土壌のpH調整を実施しましょう！

土壌のpHが低いと、放射性セシウムを吸収しやすくなります。野菜類の多くはpH6.0～6.5が好適範囲なので、pHがそれよりも低い場合は、石灰資材等でpHをあげましょう。ただし、pHが高すぎると微量元素の欠乏が発生するので、入れ過ぎには注意してください。

#### ・堆肥や育苗培土について

堆肥や育苗培土などは、放射性セシウムが400Bq/kg以下であることを確認したものを使用してください。販売されているものについては、400Bq/kg以下であることが確認されています。

堆肥を施用することにより、土壌の保肥力を高めるとともにカリウムを補給することができます。

#### ・自家製腐葉土について

原発事故後に集めた落葉（H24年産の落葉も含む）で作った腐葉土は、高濃度の放射性セシウムを含んでいる可能性が高いので使用しないでください。

↓裏面も見てください

## 【資材について】

野菜類は、土壤中にカリウムが十分ある場合は、根から放射性セシウムをほとんど吸収しませんが、汚染された被覆資材を使用すると葉面から放射性セシウムを吸収してしまいます。作物に直接触れないトンネル用資材であっても、結露等により放射性セシウムを含んだ水が作物に付着することがあるので注意が必要です。

### ・原発事故時に外にあった被覆資材は使用せず、適正に処分しましょう。

原発事故時に畑で使用または屋外で保管していた被覆資材（べたがけ資材やトンネル資材など）には、高濃度の放射性セシウムが付着している可能性があります。当時の資材が残っている場合は、目印を付けて保管し、適正に処分してください。

### ・被覆資材は屋内で保管してください！

原発事故後に購入した資材であっても、保管場所によっては放射性セシウムに汚染される可能性があります。軒下など土ぼこりや屋根からの雨水がかかるような場所には置かないよう注意してください。

